

令和5年度納涼祭を振り返って(特徴点)

2023年8月12日

- 1 4年ぶりの納涼祭、しかも、長房地域においてはコロナへの危惧から納涼祭を中止する町会・自治会が続出する中で大変心配したが、関係者の協力によって乗り切り、住民の期待に応えることができた。
- 2 納涼祭への参加者は、天候にもめぐまれ、さらに近隣で納涼祭が開催していないことなどから過去最高の人出となって盛り上がった。とくに子供たちの参加は今まで以上に多く際立った特徴。「こまくさの家」の人たちを今年も招待したが、「船田町会の納涼祭は何よりも楽しみ」と喜んでいただいた。
- 3 長房中学校吹奏楽部の演奏会は今年で5回目、演奏時間帯には父兄を含め多くの人たちが駆け付けて会場はいっぱい。演奏内容も充実していて、演奏を楽しみにしている人たちが増えている。関係者に感謝!
- 4 子供抽選会の対象者は282人、参加者は例年並みの200人。当たりの景品はこども券(500円相当)で、外れた人には町会のお楽しみ券を全員に配布した。盆踊りに参加した子供は2日間で延べ140人だった
- 5 子供神輿は9時に出発、10時まで町内会を巡行した。こどもの参加者は63人(うち幼児17人)、子ども役員や交通安全・防犯・消防団、町会役員を含めた参加者は100人以上。炎天下で熱中症対策を事前にしっかり行ったために無事終了することができ子供たちの楽しい思い出作りに貢献した。神輿の担ぎ手に今年の子供たちの父親が過去最多の14人もが参加し、大きく前進した。
- 6 太鼓は夏祭りに欠かせない存在。船田町会の太鼓愛好家は小学生5人、中学生3人、大人(大学生含む)14人で形成されている。大人たちは子供のころからのたたき上げで、次の子供たちを育て上げきた。ほとんどの町会・自治会が他所の和太鼓集団等に有料で依頼しているのに対し、自前で調達している船田町会の太鼓は大きな特徴の一つ。今年も長房小学校から太鼓を1つ借りて延べ40人が参加して盛り上げてくれた。
- 7 舞台・売店設営から片付けまで、町会役員や協力団体から延べ550人の人たちが猛暑が続く中を積極的に参加して納涼祭を成功させた。とくに高齢化が進む中で売店の運営も厳しいとの指摘もされたが、今回から実施した売店の見直しも功を奏して問題なく対応できた。何より事故を未然に防げたことはよかった。
- 8 舞台づくりで目だったのは、若い力の台頭等である。とくに建設業に従事している20歳代の女性は、今回はじめて舞台づくりに参加し、高い技術力を駆使して男顔負けの働きぶり、周囲からも評価された。また、若い消防団の皆さんの活躍も目を引いた。勿論、柱の組み立て、天井へのよしずやシート張り、祝金掲示板設置などベテランの力も不可欠で、船田町会の伝統的な底力を今後も大事に継承させなければならない。
- 9 売店の総売り上げは1,360,390円で前回の令和元年度比べると272,474円の売り上げを伸ばした。売り上げの大きかったのは焼きそば、フランクフルト、焼き鳥、おもちゃ、かき氷、おでんの順。一方、損益(総売り上げ-仕入れ)では焼きそば、かき氷、フランクフルト、おもちゃの順で、おでんと焼き鳥は赤字だった。とくに焼き鳥は過去最高の2,600本も売り上げていた。
- 10 売店の最大の問題は、売り切れ時間が早かったことである。1日目の一番早いところは18時40分、2日目も19時30分にはほとんどの店が売り切れ閉店状況、お楽しみ券を使えなかったと不満が届いた。また、2日目の最後の踊りの時間帯には、店をしめて帰ってしまうところがあり、祭りの一体感を損なってしまったことは大いに反省しなければならない。
- 11 抽選券の配布数は724枚、そのうち投函数は324枚、景品数は240個で当たり率は74%、ちなみにはずれは84枚だった。呼び出しをかけた1等から5等賞の中で6人が時間帯に不在であったために無効となった。6等から12等までに当たった方で取りに来られなかった方には、自宅へ届けた。
- 12 納涼祭を支える財政基盤である。協賛金は707世帯で353,500円集まり、724世帯中97.7%から協力していただいた。寄付金は多くの方たちの協力によって778,000円(令和元年比-79,000円)が集まった。今年の特徴はハタノ木材関連で13万円など大口寄付者は増えたものの、個人寄付者が減少したこと。町会はこのことを事前に予測して今年度から5万円を10万円へと増額し納涼祭を支援した。子供神輿へのご祝儀は78,402円で、コースの短縮により5万円近く減少した。
- 13 設備面ではトイレの水洗化と焼き鳥屋の焼肉用器具(2万6千円)の購入が大きな特徴。トイレは納涼祭にあわせて神社崇敬会が水洗化の工事を施工した。この結果、今まで簡易トイレ2台を借用して利用していたが、「明るくてきれい・清潔」「安心した」などと評判が良かった。また、経費節減にも大きく貢献した。焼肉用器具はレンタルで1回1万円以上していたが、思い切って購入してもすぐに元が取れると判断して今回は1台に限定して購入した。来年度は劣化している提灯、シート、よしずの交換が必要。 <ウラへ>

14納涼祭の華ともいえる踊りの参加者は、22日が長房西民謡会6名(長房団地)、豊光会8名(長房団地)、みすず会6名(楡原町)、中野西三8名(中野町)、白雪会1名(長房団地)、文の会6名(船田町会)、レディースクラブ15名(船田町会)で50名、23日が炎龍会6名(八木町)、花植9名(元本郷町)、文の会4名(船田町会)、レディースクラブ15名(船田町会)で34名だった。2日間の踊り手の総数は84名、うち外部からの参加は44名だった。

15多くの町会・自治会が高齢化によって踊り手が少なくなり、納涼祭を止めざるを得ない状況が続くなかで、船田町会は文の会、レディースクラブの皆さんが頑張っていてグループを維持している。しかし、現状維持が精一杯で若い踊り手の確保は最大の課題でもある。今年度は文の会との関係で応援部隊が従来よりも増えているが、あくまでも主催は船田町会納涼祭実行委員会であり、ここの連携をもった対応を期待する。

16今年新たにタバコの火と、蚊取り線香の火によって、2人の着物に穴が開いてしまうという事故が発生した。タバコの被害は22日、踊りのテントの来客席で中年男性がタバコを吸っているのが目撃されており、その脇を行き来した踊り手の一人が帰宅した後、穴に気づいたとのこと、もう一つは23日、一瞬風が吹いた時、来客席に座っていた来客の踊り手の着物に風に煽られた蚊取り線香の火が付き穴があいたとのこと、被害を受けたお二人にはレディースクラブがお詫びを含めて丁寧に対応していただいた。今後の対策として関係者以外の立ち入り禁止の貼札や無断で入れないようにロープの設置、蚊取り線香の取り付け場所、吊下げ式蚊取り線香皿の購入などの検討が求められている。